



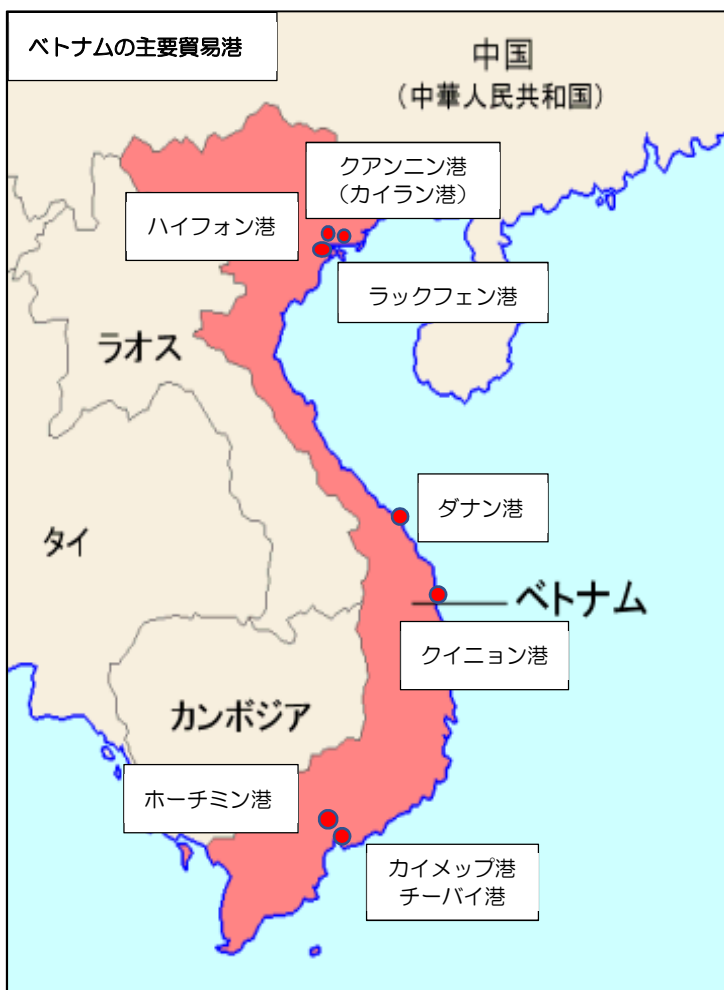
## <CAM ベトナム・特別レポート>

2019年10月8日

### ベトナムの港湾インフラ整備

米中貿易摩擦問題が長期化し、その悪影響を避けるため、日米中韓の製造業を中心とした企業がアジアでのサプライチェーンの再構築を図る動きが本格化している。生産・輸出拠点をフィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム等のアセアン諸国に移管している。

ベトナムがその中でも筆頭の候補地とされるが、同国のインフラが「アジアの工場」たる中国の代替地として、どの程度のものなのか世界の注目を集めている。そこで今回は、現在のベトナムの主要な港湾インフラの整備状況をまとめた。



#### <概観>

ベトナム海事局によると、現在同国には45の港湾があり、2018年の取扱貨物量は5.3億トンだった。

地域的には全体の62%を南部が、26%を北部が、残り12%を中部で占めている。また同年のコンテナ取扱量は1,806万TEUで、南部が全体の70%、北部は26%を占め、中部は4%であるとしている。

2018年コンテナ取扱量は輸入(+10%)、輸出(+9%)ともに伸び、国内向けの急伸(+83%)と合わせて全体で20%の伸びとなった。



## ■南部の主要港湾

・ホーチミン港：ベトナム最大の都市ホーチミン市に近く、サイゴン川やドンナイ川沿いにある合計 42 の岸壁からなる河川港である。ベトナム南部の経済拠点ホーチミン市周辺地域の経済活動にとって不可欠な物流基盤で、5 万トンまでの大型船が入港可能である。2020 年には同港の取扱貨物量は年間約 1.2 億トン、そのうちコンテナ取扱量は年間 656~682 万 TEU に達する見込み。

・カイメップ・チーバイ港：ホーチミン市の南東約 60km のバリア・ビンタウ省のカイメップ川・チーバイ川に集まる港湾群の総称。日本の ODA や民間資本により建設された。8 万~20 万トン級の大型コンテナ船も入船可能である深水バースがある港湾で、ホーチミン港の代替港との位置づけである。2020 年には同港の取扱貨物量は年間約 1 億トン、そのうちコンテナ取扱量は年間 314~330 万 TEU に達する見込み。



カイメップ国際港

## ■北部の主要港湾

・ハイフォン港：首都ハノイの東約 100km に位置する北部最大の商業港であり、ディン・ヴーやナム・ハイ・ディン・ヴーを中心に合計で 47 の岸壁がある。2018 年に同港の取扱貨物量は 8,654 万トンに達した。

・ラックフェン港：日本の ODA を活用して 2018 年 5 月に開港した北部地域初の国際大水深港である。水深 14m で 5~10 万トンクラスの大型コンテナ船の寄港が可能である。周辺には多くの日本企業が進出し、それに伴い工業団地や各種インフラの整備が進んでいる。また、韓国サムスン電子もここを輸出拠点としている。



ラックフェン国際港

・クアンニン港：ハノイから約 150km にある海港で、ハイフォン港を補完する国際商業港として建設された。主要港はカイラン港で、航路水深は 10m で最大 5 万トンの船舶まで入港が可能である。

#### ■中部の主要港湾



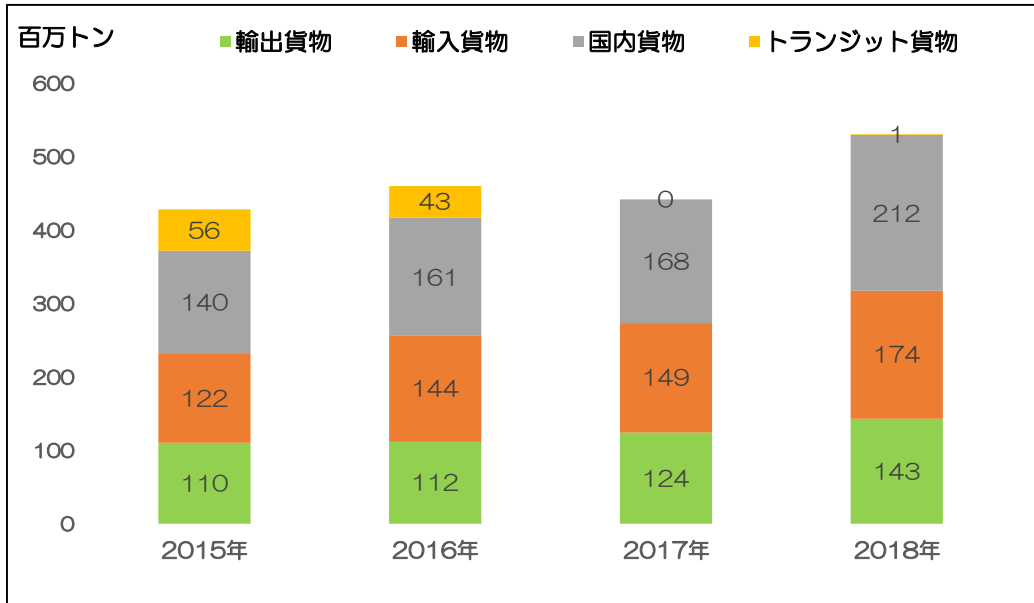
ダナン国際港

・ダナン港：ティエン・サ、トー・クアン、リエン・チエウ港などの主要港を含む中部地域の海運の中心である。現在、ティエン・サ港湾は航路水深が 12m で 3~5 万トン級の船舶が入港可能である。2020 年までにリエン・チエウ港を拡大し、大型の 8 万トン級の船舶も入港が可能となる予定である。

・クイニョン港：主要港はクイニョン・チーナイ港で、航路水深 17m で 5 万トン級のコンテナ船が着岸可能となっている。

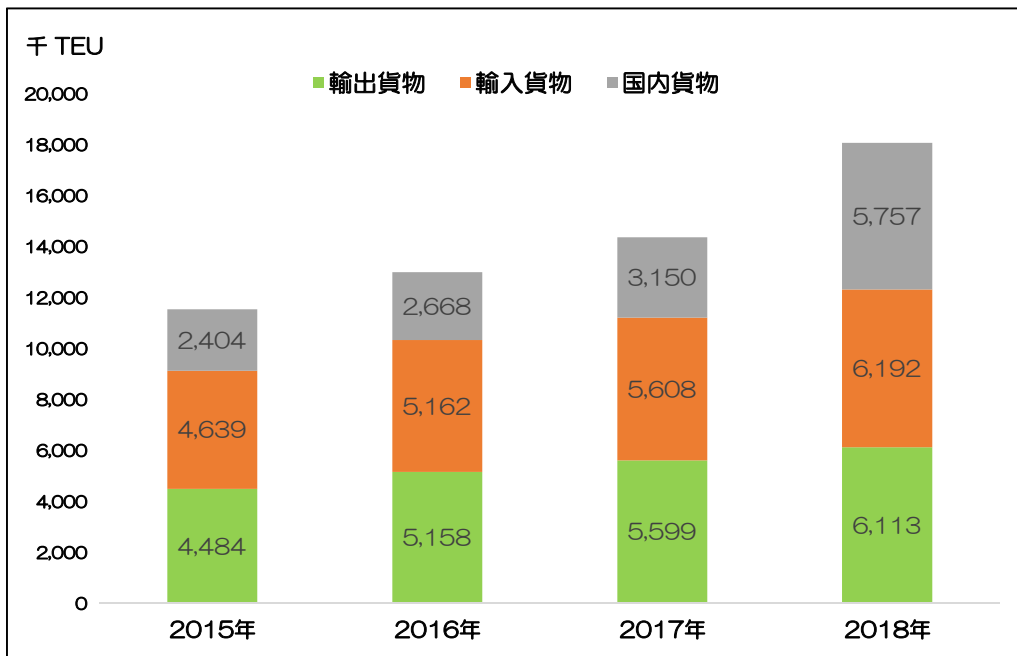


図表 1: ベトナムの貨物取扱量推移



出所：ベトナム海事局のデータを基にキャピタル アセットで作成

図表 2: ベトナムのコンテナ取扱量推移



出所：ベトナム海事局のデータを基にキャピタル アセットで作成





## <まとめ>

ベトナムでは以前から、経済発展とともに増大する貨物量に対応した港湾設備が不十分ではないかと言われてきた。南北に長い海岸線があるという有利な地形である反面、大型貨物船が接岸できる大深水港（10メートル以上）がないことが貿易上の弱点とされていた。しかし近年、日本を中心としたODA（政府開発援助）によって、南部と北部の主要港を中心に港湾整備が進み、その取扱能力は大幅に改善している。

|    | 国名       | 2017年コンテナ取扱量（万TEU） | 2017年対全世界シェア（%） |
|----|----------|--------------------|-----------------|
| 1  | 中国       | 21,372             | 28.4            |
| 2  | 米国       | 5,143              | 6.8             |
| 3  | シンガポール   | 3,360              | 4.5             |
| 4  | 韓国       | 2,743              | 3.6             |
| 5  | マレーシア    | 2,472              | 3.3             |
| 6  | 日本       | 2,190              | 2.9             |
| 7  | アラブ首長国連邦 | 2,128              | 2.8             |
| 8  | 香港       | 2,077              | 2.8             |
| 9  | ドイツ      | 1,945              | 2.6             |
| 10 | スペイン     | 1,707              | 2.3             |
| 11 | 台湾       | 1,497              | 2.0             |
| 12 | オランダ     | 1,395              | 1.9             |
| 13 | インドネシア   | 1,386              | 1.8             |
| 14 | インド      | 1,326              | 1.8             |
| 15 | ベトナム     | 1,228              | 1.6             |
| 16 | ベルギー     | 1,186              | 1.6             |
| 17 | タイ       | 1,073              | 1.4             |
| 18 | イタリア     | 1,070              | 1.4             |
| 19 | イギリス     | 1,053              | 1.4             |
| 20 | ブラジル     | 1,005              | 1.3             |
| 21 | トルコ      | 993                | 1.3             |
| 22 | サウジアラビア  | 840                | 1.1             |
| 23 | フィリピン    | 820                | 1.1             |
| 24 | オーストラリア  | 769                | 1.0             |
| 25 | エジプト     | 743                | 1.0             |
| 26 | パナマ      | 690                | 0.9             |
| 27 | フランス     | 671                | 0.9             |
| 28 | メキシコ     | 631                | 0.8             |
| 29 | カナダ      | 630                | 0.8             |
| 30 | スリランカ    | 600                | 0.8             |
|    | その他諸国    | 10,530             | 14.0            |
|    | 全世界      | 75,271             | 100.0           |

出所：国土交通省のデータを基にキャピタル アセットで作成

日本の国土交通省の統計によると中国の2017年の取扱コンテナ数は約2.14億TEUで世界第一、全世界の28.4%を占める。同年のベトナムのそれは1,228万TEUであり、シェアは1.6%である。2017年の同データ上では、ベトナムはアセアンの中で、シンガポールやマレーシアにこそ及ばないが、既に、タイ、フィリピンを凌ぐ水準である。データ出所が異なり、単純比較はできないものの、最近のインフラ増強によって、2018年にはインドネシアを上回った可能性もある。

世界で群を抜く規模を誇る中国の約6%に過ぎない規模のベトナムではあるが、最近ベトナムと並びサプライチェーンの再構築に伴う企業製造拠点の移管先として競合相手とされるインドネシア、タイ、フィリピンを超える取扱量規模に達していると推測される。

以上

【参考資料】ベトナム海事局、ベトナム港湾協会、ベトナム統計総局、JETRO、交際協力銀行の各HP/資料、ベトナム交通運輸省承認済み南東海港グループ開発マスタープラン、国土交通省